

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年1月11日(木)

# みんなの居場所

## 【雑感】

先日 ある教員から連絡があった。就職試験に失敗したという連絡だ。かなり落ち込んでいたが、再度チャレンジするということだった。電話の後、次の言葉が色紙に書き贈った。

「耐える心に、新たな力が湧くものだ。全てそれからである。心機一転、やり直せばよいのである。長い人生の中で、そのための一年や二年の遅れは、モノの数ではない。」

本田宗一郎

誰にでも多かれ少なかれ、失敗や挫折の経験はあろう。私は失敗だらけの人生を送ってきた。その度に卑屈になり、今振り返ると少々見苦しい青春時代を過ごしたように思う。私の経験則から、失敗を乗り越えるには、あつちの人生には良い糧となる工夫が多い。この教員にも頑張っているところだ。

## 卒業前編 ～中学校生活～

の年生田中中学校に入学して半年を過ごしてきている。ではないが、このころから私が思う中学校生活は、生徒像を書いてみたいと思います。

中学校生活は思春期を迎える、何か繊細なイメージでしょうか。ちよつとたいてい閉じてしまふ気持ちの弱さを持つ時代でしょうか。そのようなイメージが私はあります。友人関係、先輩後輩、親子関係の変化、勉強、部活…。子供達が抱える不安は多岐にわたります。今回はまず学習全般と生活リズムの関連について考えてみたいと思います。

大きく変わるのは部活動等に多くの生活の劇的な変化ではないでしょうか。私の場合、学習以外の時間は殆ど部活動につき込んでいました。友達といる時間がかつても大切に感じられたからです。しかし、私の学習時間は小学校時代と比べて激減しました。実際のところ、中学生になったからといって学習の時間を増やすというよりは物理的に無理です。7時間授業も始まる、また、部活動も始まれば、家に帰ったり「食へて寝る」というのが始まりました。それに反し、中学校で1学期に進む教科書のページ数は平均して100ページ、暗記しなければならぬ事柄は、実に小学校の1.5倍に跳ね上がります。勉強の仕方にまつて、成績に大きな差が生じる時期です。だから、小学生のこの時期に、短時間で集中して学習する習慣、毎日自主学習をする習慣を身に付けておくことが大切なのです。

私の場合、それでも学習時間は増えませんでした。思春期の入り口のこの時期、自分だけのプライベートスペースを保障される、自分の興味のあるものに気が持たず動き、学習時間を削ってしまつたのです。こういったことが習慣化するとい、それこそ、中学生時には取り返すことができない、大変な問題が起きてくるのです。

結論として、中学生は、学習環境の自主学習を生活時間の中で、自分なりにコントロールするところが大切であり、与えられた枠からはみ出さず、自分が必要なもの、あるいは自分なりの工夫、自分の力を探していき、その解決としていくことが、本来の力となるのです。

そして、追加しておきたいように、規則を打破することは重要で、守れなければ「ハッパッ」一刀両断です。規則の中で自分を表現する術を考へてほしい。

## シリーズ「自分を語る」#146

平成28年度、何かを始めるかを考えた私澤田。あんまり大したことはできないので、このお便りのタイトル通り、学校に関係する人達にとって「居場所」であるためには何かが必要か、昔その様な視点で物事を考へるようになってきました。平成28年度末から私、自宅でスイレンを栽培し始めていて、成長が順調だったのでこれを学校へ持つていこうと思ひました。スイレンはもともと敵い環境の中でも強い植物で、放つたらかきにしていても、生きています。そこで、私自宅で植木鉢一杯に根の張つていたスイレンを鉢分けし、3株ほど学校に持つていきました。鉢分けしたスイレンを見て、最初は先生方も子供達も「何だこの根」「何だ」と思つていたのでした。そんな根っこが、鉢の中一杯に根を張り、3月には株だけではないとげない状況になります。スイレンですから水が無いといけません。水があれば欲しくなるのが水生植物です。ちよつと良い臭い私にはメタカを飼つていたので、水草ごとメタカの卵をスイレンのタライに持つてきました。数日後、針の先のような動く物体が、メタカの稚魚です。生まれたての稚魚は針子でも呼ばれます。朝の登校指導の折は、タライを覗き込むのが日課となりました。

4月から気温が上がり始め、9月頃まではコンスタントに水を変えてあげないと、すぐに腐つてしまいます。もともとメタカも強い魚なので放つたらかきにして大丈夫な魚なのですが、愛情を注げば注いほど可愛くなるものです。しかしながら、私たちがメタカの世話ばかりしてはいただけません。という訳で、たまに近づくに子供にお世話をお願いするようになりました。夏休みに入りま、きりんと世話をするのができ、夏休みに入った頃でした。ちよつと、スイレンの花がやつと咲きました。玄關を通る人達が足を止め、タライを覗き込む姿を見てちよつと嬉しいなる澤田でした。

平成29年度、がむごつたに泥臭い、何かを追い求めていた澤田ですが、これとていつ決定打を探すとてかできないまま時間が過ぎていきました。「みんなの居場所」はコンスタントに執筆でき、保護者の皆様からの多々への反響もあり、調子に乗つて執筆してまいりました。

10の年は意味不明なものであつた問題に過ぎたといつか、大きな出来事が無く過したといつか、私にとってはあまり印象に残つていない時間となりました。とにかく次々と出ている事務処理には閉口してまいりました。働き方改革が叫ばれる昨今、教職員の働き方改革はちよつとたつた、と叫びだすような状況でした。とは言え、その様に感じているか、できるか、ちよつとたつたのも平成28年度があったからだと思います。仕事に追われて過した10年間でしたが、それによつて1年間の事務処理の流れは何か、なかつてきました。だからこそ、その業務量の多さを実感するようになってきたのだと思ひます。教職員の事務仕事だけやっていけば良いものではなく、突発的な問題にも対応する工夫が必要なのです。しかし、突発的な問題対応はかなりのエネルギーを使います。(つづ)